

1. 授業の概要(ねらい)

どのような言語であれ、私たちの使うことばは、さまざまな社会的な要素(属性・地域など)と密着に関りを持っている。

社会的属性(男性・女性)はもちろんのこと、居住する地域や(引越・就職などによる)本人の社会環境の劇的変化により使用することばも変わっていく。例えば、日本語といっても「とうもろこし」「とーきみ」「とーきび」、「もろこし」といったりする地域がある。「さあ行こう」を「さあ行くべ」、夜の挨拶として「おぼんでございます」という地域もある。日本語でも、居住する地域によって使うことばが違うのだ。

また、女性話者の中には「わたし」のことを「うち」という人がいる。「わたし」の意味で「うち」を使用する男子学生は、(女性と異なり)それほど多くないであろう。これは、属性によることばの違いを反映している。

このように私たちを取り巻く社会とことばは切っても切れない関係にある。本講義では、社会という観点に着目し、言語にみられる特徴をさまざまな研究分析方法を用いて探っていく。

なお、この講義は受講することでたくさんの地域のことば(方言)を知ることができるかと、正しい日本語が身につくわけではない。なぜなら、この講義は社会と言語の関係を研究・分析するものであって、そのようなことを目的としたものではないからである。よって、上の例に挙げたような地域のことばは、日本語を研究するための手段の一部として、ほんの数回取り上げるだけで、方言のことばを探る・学ぶことが、講義の本質ではないことをあらかじめ述べておく。

2. 授業の到達目標

社会と言語のかかわりについて説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

出席(30%)・テスト(50%)・授業時のレポート(20%)

4. 教科書・参考文献

教科書

授業ではプリントを配布すること。

5. 準備学修の内容

ノートを読み返すなど復習をする。

6. その他履修上の注意事項

授業内で感想・現在気になっている言葉などコメントを書いてもらうことがある。

受講者多数の場合、履修制限をかけることがある。履修を希望する学生は、初回の授業に必ず出席すること。

7. 授業内容

- | | |
|--------|-------|
| 【第1回】 | ガイダンス |
| 【第2回】 | 言語変種 |
| 【第3回】 | 言語変種 |
| 【第4回】 | 言語変種 |
| 【第5回】 | 言語変種 |
| 【第6回】 | 言語行動 |
| 【第7回】 | 言語行動 |
| 【第8回】 | 言語行動 |
| 【第9回】 | 言語行動 |
| 【第10回】 | 言語生活 |
| 【第11回】 | 言語生活 |
| 【第12回】 | 言語生活 |
| 【第13回】 | 言語生活 |
| 【第14回】 | 言語生活 |
| 【第15回】 | まとめ |